

平成26年度食品環境研究センターの事業内容

食品環境研究センター長 若林 敬二

2015/04/28

【構成メンバー】

センター長 若林 敬二

副センター長 熊澤 茂則

センター研究員 小林 裕和、坂田 昌弘、谷 晃

客員共同研究員 竹本 大輔、下吉 里実、糠谷 東雄

平成 26 年度食品環境研究センターの事業内容

食品環境研究センター長 若林 敬二

当センターは、地域における健康と福祉の向上、および地域産業の推進を目指して、「食と健康」や「環境と健康」に関連した研究とともに地域の人達への教育・啓発活動などを行っています。平成26年度に実施した主要な事業を以下に示します。

■ 共同事業

静岡食品環境フォーラム(主催:食品環境研究センター、静岡県試験研究機関、食品栄養環境科学院)

目的:静岡県立大学食品栄養環境科学研究所と静岡県試験研究機関との親睦、研究交流を深め、地域における健康と福祉の向上、および地域産業の推進に寄与する研究の促進を図る。

日時:平成26年12月19日(金)

会場:静岡県立大学小講堂、学生ホール

担当:若林敬二

内容:小講堂における口頭発表では、県立大学2題、県試験研究機関5題、県健康福祉部1題、計8題の発表が行われ、学生ホールでのポスター発表では、県立大学29題、県試験研究機関18題、計47題の発表が行われた。口演、ポスター発表を通して、活発な討論が行われ、また、ポスター発表後の懇親会に於いて有益な情報交換が行われた。別紙に、当フォーラムのプログラムを添付する。

■ 教育・啓発活動

1) 夏休み親子環境教室

目的:小学生とその両親を対象に、楽しく実験しながら、環境のことを考えるきっかけにする。

日時:平成26年8月9日(土)

会場:静岡県立大学 食品栄養科学2号棟

担当:雨谷敬史、三宅祐一、戸敷浩介

内容:プラスチックは、環境中で分解しにくいものが多く、放置されていることが問題になるが、そのリサイクルには、プラスチックの種類によって性質やリサイクル方法が変わるという問題もある。そこで、「プラスチックの見分け方」と題して、身近にあるプラスチックの材質による性質の違いについて実験を行った。性質としては、密度、ポリスチレンのリモネンによる溶解、ポリエチレンの熱可塑性、アクリルのジクロロメタンを使った接着性、ポリ塩化ビニルのバイルシュタイン反応について実験した。

2) 食品栄養科学部 2014 キッズ・ラボ

目的:より多くの子供たちに「科学」に親んでもらえるよう、実験体験ができる科学教室を静岡科学月間の一環として開催している。

日時:2014年7月26日、11:00~12:00、14:00~15:00

会場:ディスカバリーパーク焼津天文科学館

担当:島村裕子、増田修一、新井英一等

内容:小学3~6年生を中心に40名とその保護者が参加し、じゃがいもを使った飽和食塩水と水の見分け方、密度の違う食塩水を用いた虹の作り方などについて、食品栄養科学部の教員7名で実験の指導を行った。

3) サイエンスフェスティバルinる・くる 青少年のための科学の祭典 第18回静岡大会(主催:静岡科学館る・くる)

『伝わるチカラ ～共振で遊ぼう～』の課題で出展

目的: 青少年の科学技術離れに歯止めをかけることを目的として、平成4年に東京の科学技術館でスタートした「青少年のための科学の祭典」の活動を受け、静岡大会は平成9年にスタートした。この科学イベントに、静岡市との連携事業の一環として本年も参加した。

日時: 平成26年8月10日(土)

会場: 静岡科学館る・くる

担当: 内藤博敬、斎藤貴江子、松本祐里奈(修了生)

参加者数: 入場者のべ3000名、ブース参加者約400名

内容: ヒモの長さを変えた3つの振り子を工作してもらい、揺らし方を変えると、3つのうち1つだけが動くことを、楽しみながら学んで頂いた。また、共振なべを使った水の吹上げや、メロノームのシンクロ実験など様々な体験を通じて、子供からお年寄りまで、“共振”を考えて頂いた。

4) サイエンス玉手箱

『科学で学ぼう サバイバルテクニック!』の課題で出展

目的: これまで環境科学研究所の助教が有志で行ってきた「しずおか環境を学ぶ会」の活動は静岡科学館に高く評価され、本年度から静岡市との連携事業として科学館のプログラム(サイエンス玉手箱)に組み込まれた。

日時: 平成26年6月21日(土)

会場: 静岡科学館る・くる

担当: 環静会(内藤博敬、斎藤貴江子、保田倫子)

参加者数: ブース参加者約150名

内容: 災害時に使える身近な科学をテーマとして、ワークショップスペースではヒモ・ロープの結び方や、救急救命のおぼえ歌を紹介した。実験ステージでは、缶詰を使ったランタンや簡易浄水器の作り方、サイフォンの原理による水の移し方などを体験して頂いた。

5) 食育アドベンチャーランド2014体験その2「創造の湖」

目的: 親子が一緒になり、スポーツ活動と食育を結びつけた指導法である「スポーツ食育」プログラムの一環として、大学教員から学ぶ実験や実習を体験する。食の奥深さ、大切さを認識するとともに、科学実験や調理の楽しさを知る機会になる。

日時: 平成26年8月18日(月)

会場: 静岡県立大学食品栄養科学部棟実習室

担当: 市川陽子

内容: 親子(小学生)15組37名、食品栄養科学部教員5名、学生4名、その他スタッフ4名が参加し、「五感をフル活動させ、楽しみながら親子で学ぶ」をモットーに、食品科学実験(ワサビ、卵)、県特産品の紹介と調理実習、食育ピクス(運動)、学生による栄養寸劇を行った。

6) メディ・メッセージ2014「食とからだ」コーナー

目的: 体の成長、体力づくりや健康維持に食が果たす役割について、来場者に正しい情報を提供し、県民の健康増進、生活習慣病を未然に防ぐ健康的な食環境の実現に寄与する。

日時:平成26年10月25日(土)、26日(日)

会場:ツインメッセ北館大展示場

担当:市川陽子

内容:イベント全体来場者6,000名超の内、親子連れから中・高校生、高齢者まで、1400名以上が当コーナーに立ち寄った。「食とからだ」コーナーでは、食品栄養科学部教員4名、学生42名が交代で対応し、食事バランス判定とアドバイス、減塩の工夫に関する展示、疾患予防のための食事に関する情報提供を行い、食が果たす役割、食の大切さについて説明した。

7) 平成26年度「がんの教育総合支援事業」生徒向け講演会

目的:がんと云う病気の発生とその性状、及び予防と治療法について高校生を対象として説明し、がんについて学ぶ機会を提供し、社会的に問題となっているがんの克服の一助とする。

日時:平成26年11月26日

会場:静岡県立富士高等学校講堂

内容:富士高等学校1, 2, 3年生及び教員を対象に、がんの発生要因とその予防について約1時間の講演を行った。更に、がん患者会の代表が、自身のがん治療の体験談を解説した。

■ 講座・講演会

- ・ 若林敬二:食・環境・健康の研究・情報発信拠点「食品環境研究センターの開設」,第87回「産学官交流」講演会・交流会,県立大学「食と健康、薬食同源に関する研究」の紹介,静岡商工会議所・清水事務所(静岡市),2014年6月27日.
- ・ 若林敬二:食品環境研究センターの紹介と活用方法について,食品等開発研究会第2回部会,静岡県産業経済会館(静岡市),2014年5月13日.
- ・ 若林敬二:がん予防について～最新の情報を含めて～,静岡県対がん協会「がん予防講演会」(御殿場市),2014年10月18日.
- ・ 若林敬二:がん予防の大切さ,静岡県対がん協会「がん予防講演会」(吉田町),2014年4月21日.

■ 研究交流会

- ・ 第1回 PM2.5に係る研究について

日時:平成26年4月25日(金)

場所:食品栄養科学部環境生命科学科棟 2階会議室

参加者:坂田教授、雨谷准教授、谷晃准教授、若林センター長、静環検査センター:山本政利氏等5名

- ・ 第2回 平成25年度実施試験結果について(太田ポンカン果皮を投与した鶏の産卵及び卵の性状への影響)

日時:平成26年5月16日(金)

場所:食品栄養科学部環境生命科学科棟 2階会議室

参加者: 中小家畜研究センター 3名(松井翠平氏、中川佳美氏、柴田昌利氏)

果樹研究センター 1名(中村茂和氏)

県立大学7名(若林センター長、熊澤副センター長、糠谷客員教授、中嶋産学連携室長、藁科助教、戸敷助教、M2今西)

■ 教育・研究活動

- 博士前期課程2年:高柳亜紀子
論文題目:太田ポンカン果皮による脳機能改善作用
論文審査員:(主査)下位香代子、(副査)若林敬二、牧野正和
- 博士前期課程2年:今西稜太郎
論文題目:太田ポンカン果皮を投与した動物におけるフラボノイド化合物の体内移行
論文審査員:(主査)下位香代子、(副査)若林敬二、三浦進司
- 講義:環境共生学特論、化学環境特論

■ 参考資料

- 1) 食品環境研究センターパンフレット(別紙1)
- 2) 静岡食品環境フォーラムプログラム(別紙2)